

# 発掘ニュース

第 31 号

平成 3 年 5 月 23 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団  
TEL 0246 (29) 0391

## 高戸 A 遺跡の成果

—東北横断自動車道いわき新潟線

( 磐越道 ) 関連発掘調査始まる—

太平洋側のいわき市と日本海側の新潟市を高速道路で結ぶ、通称磐越道の建設にともなう埋蔵文化財の発掘調査が、各地で始まっています。

いわき市内では、路線内に10数カ所の埋蔵文化財の遺跡が確認されています。そのトップを切って平成2年(1990)10月より三和町上永井にある、高戸A遺跡から発掘調査が始まりました。これまでに、高戸A遺跡からは縄文時代の土器や石器、平安時代の自然流路と思われる跡などが見つかっています。また、江戸時代の墓跡も11基見つかりました。墓跡の中からは、骨片と共にキセルや銭貨・漆片・念珠玉などの副葬品も多数見つかっています。これら墓跡の中から見つかった歯については、専門家に鑑定を依頼し、性別や年齢などを調べているところです。

今年度は、差塩地区においても磐越道関連による発掘調査が開始され、その成果に期待が寄せられています。



①発掘調査風景 ②縄文土器 ③流路跡 (平安) ④墓跡 (江戸) ⑤キセル

## 永井地区の遺跡

永井地区を含め三和町には数多くの遺跡があります。現在永井地区で確認されている遺跡数は16にのぼります。高戸A遺跡を始め、大堀A遺跡などいくつかの遺跡で発掘調査が行われています。作B遺跡からは、これまでいわき地方ではあまり見ることのできなかつた、弥生時代始まり頃の土器が見つっています。また、明神平遺跡からは約6千年前の縄文土器も見つかりました。

### 大堀A遺跡の成果 いわき市三和町上永井字大堀

大堀A遺跡は永井中学校の新築工事を原因として平成元年(1989)12月から平成2年(1990)4月まで発掘調査が行われました。標高320mの平らな丘陵部分約4000㎡を発掘調査しました。現在永井中学校は立派に建て替えられましたが、その地下には私たちの先祖の太古の歴史が眠っていたのです。

〈旧石器時代〉 今から1万5千年以上前の石器が見つかりました。黒曜石製のナイフ形石器、頁岩製のサイドスクレーパーなどです。これらは木を削ったり、獣を解体したりする道具として使われたのもです。これらの石器の発見により、三和町には旧石器時代から人が暮らしていたことがわかったのです。



いわき市三和町永井地区周辺の主な遺跡







殿田館全景



殿田館の居館と土塁

### 差塩地区の遺跡

差塩地区には、現在知られているだけで15の遺跡があります。道添B遺跡などから縄文土器の破片や石鏃せきぞくが見つっています。このほかにも、以前から地元の人によって土器が発見されていた場所や、今回改めて確認された遺跡もあり、まだ多くの遺跡が存在する可能性があります。

また、館下地区を囲む3方の山には中世の城跡が確認されています。このうち匠番しょうばん柵館さくだてと殿田どの館だては、伐採によってその姿をみなさんの前に現しています。写真からは、稜線を削ってつくった、曲輪くるわと呼ばれる平場と、外敵の侵入を防ぐために築いたどるいどるいほりまりほりまり土塁や掘切の存在が確認できると思います。

とじておきましょう

### 発掘作業員急募！

磐越道関連の遺跡発掘調査が いわき市三和町差塩地区で行われています。  
あなたも発掘に参加しませんか。

(電話) 86 - 2601

連絡先 (財)いわき市教育文化事業団差塩地区現地事務所